

総合成績

(9位以下関係分)

- ①長野市 2時間19分55秒
(若林、越、大島、中村、小中、仁科、渡邊、白川、小森)
- ②駒ヶ根市 2時間19分59秒
- ③松本市 2時間21分27秒
- ④飯田市 2時間22分35秒
- ⑤箕輪町 2時間22分55秒
- ⑥須坂市 2時間24分46秒
- ⑦伊那市 2時間26分41秒
- ⑧下諏訪町 2時間26分43秒
(田村、ロバーツ、林幸、渋谷、松尾、臼田、林陽、西沢、西中山)
- ⑨諏訪市 2時間28分13秒
(御子柴、飯澤、藤森、池田、小林汰、齋藤、宮崎、遠藤、小林季)
- ⑩茅野市 2時間29分15秒
(北原、西澤惟、西澤洋、中澤、牛山純、牛山あ、浅川、鈴木、友井)
- ⑪岡谷市 2時間37分54秒
(宮坂、五味、中村、佐藤龍、田畑幸、佐藤希、田畑泰、宮田、西沢)
- ⑫富士見町 2時間52分54秒
(五味、小林陸、窪田、馬場、小林勇、和田、堀内、折井、矢沢)

町の部成績

- ①箕輪 2時間22分55秒
- ②下諏訪 2時間26分43秒
- ③辰野 2時間35分24秒

村の部成績

- ①山形 2時間28分58秒
- ②下條・売木 2時間38分40秒
- ③豊丘 2時間38分44秒

県市町村対抗駅伝

長野市5年ぶりV

第31回県市町村対抗駅伝競走大会は4月30日、45市町村44チームが参加して松本平広域公園陸上競技場を発着点とする9区間43・785キロのコースで行い、長野市が2時間19分55秒で5年ぶり21度目の優勝を飾った。2連覇を狙った駒ヶ根市が4秒差の2位に続き、前回2位の松本市が3位。下諏訪町が8位に入り、12年ぶりの入賞(8位以内)を果たした。

1区で10位スタートの長野市は2区で3位に浮上。その後は安定したたすきリレーでメダル圏内につけ、2位でつないだ最終9区で首位との58秒差を逆転した。駒ヶ根市は4区宮下晴貴(ニッパツフレックス、東海大三高出)や8区高梨良介(ト一ハツマリン、東海大三高出)が区間優勝する中)が選ばれた。

下諏訪町は1区田村ら好スタート。11位でたすきを受けた5区松尾悠登(佐久長聖高、下諏訪社中出)が区間2位の力走で4人抜きし、6区臼田麻花(長野東高、下諏訪中出)と7区林陽史郎(下諏訪中)も一つずつ順位を押し上げた。その後いったんは11位に後退したが、アンカー西中山宏大(和電機工業)が3人を抜いて入賞圏内に滑り込んだ。

最優秀選手賞は長野市のアンカー小森勇志が受賞。最優秀新人選手賞の男子は2区区間優勝の猿田創汰(安曇野市)、女子は1区で区間優勝した伊那市の田畑陽菜(春富中)が選ばれた。

下諏訪12年ぶり入賞

一丸のリレーで8位

下諏訪町は一丸のたすきリレーで目標の8位入賞を達成した。「なかなか9人そろえるのも難しい中で多くの人に参加してもらい、その全員が役割を果たしてくれた」と小河原監督。力のある高校生だけに頼らず、それぞれの区間でベストを尽くした選手の力走を手放しで褒めた。流れをつくったのは序盤の中高校生。1区田村が9位でスター

流れ作った序盤の中高校生

トすると、2区ロバーツが1人をかわし、3区林幸も粘って順位をキープ。いったんは順位を落としたが、5区松尾が「チームのために少しでも貢献したかった」と区間2位の好走で4人抜きし、再び入賞圏内に押し上げた。

6区臼田、7区林陽も踏ん張り、一時は5位まで浮上。その後11位まで後退したが、「うまい具合に等間隔で前に選手がいたので、1人ずつ抜いていけた」というアンカー西中山が3人を抜き、12年ぶりの入賞を手繰り寄せた。

とはいえ、町の部で6連覇した箕輪町の背中は遠く、心からの満足感はない。小河原監督は「みんなが集まりやすい雰囲気、練習会を継続して子どもたちにも興味を持ってもらい、町の部で勝てるチームをつくらなければならない」と先を見据えた。

(杉本哲也)



12年ぶりの8位入賞を果たした下諏訪町。5区松尾悠登(右、佐久長聖高)から6区臼田麻花(長野東高)にたすきをつなぐ=第5中継所